

令和6年度 学校経営計画

1 学校教育目標

一人一人に応じた健康の回復を目指し、自己教育力の育成を図るとともに、進んで社会参加できる児童生徒の育成に努める。

＜校訓＞ 『 明朗 克服 協力 』

2 学校の特徴

- ・在籍する児童生徒は、隣接するNHQ富山病院に入院して治療を受けており、常に病院との密接な連携の下、教育を実施している。
- ・児童生徒一人一人の実態を的確に把握し、障害や病気の状態に応じて個別の教育支援計画及び個別の指導計画を活用することで、一人一人に応じた指導の充実に努めるとともに、他機関との連携を推進している。
- ・児童生徒一人一人の病気の状態や障害の特性等を考慮し、ICT機器を積極的に活用しながら、基礎・基本の定着と個性の伸長を図るよう努めている。
- ・学校行事等の様々な体験学習を通して、豊かな知性と情操の育成を図るとともに、集団の中で協力し合う、豊かな社会性の育成を図ることができるよう、他学部・他学年との合同学習や行事等を通じた交流の機会を設定している。
- ・年度途中での児童生徒の転出入が多いため、前籍校及び転出校との緻密な情報共有を図っている。

3 学校の現状と課題

- ・小・中・高等部においては、慢性疾患の児童生徒が著しく減少し、心身症や適応障害等の精神的な疾患の児童生徒がほとんどである。前籍校においては、不登校や相談室登校等を経験していることが多い。これにより基礎学力や基本的な体力、対人関係、コミュニケーション能力等に様々な問題を抱えている。また、在学中のほとんどの時間を病院で過ごすため、社会経験が不足しがちである。そのため、児童生徒の人間としての調和のとれた育成を目指した指導が重要となっている。
- ・訪問教育の児童生徒は、病気の状態の多様化や障害の重度・重複化がみられ、常時高度な医療的ケアが必要である。このため、学習時間や場所、活用できる教材教具等に制限が多い。また、継続的な入院生活の中で関わることのできる人が、家族、医療関係者、教職員等に限られており、同年代の児童生徒との関わりが少ない。
- ・病弱の児童生徒の教育は、個々の実態を正確に把握し、関わりや場面に応じてICT機器を活用しながら計画的に進める必要がある。

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画		
1	学習活動	小学部	目標	○基本的生活習慣を身に付け、基礎学力の定着を図るとともに、生き生きと活動できる児童を育てる。
			計画	○個に応じた学習目標を設定し、学習内容を工夫したり、ICT機器を活用したりすることで、活動に意欲的に取り組めるようにする。 ○様々な学習活動や学校行事等を通して児童が主体的に活動する機会を設定し、成就感や自己肯定感を高めることができるようにする。
		中学部	目標	○基礎学力の向上と学習習慣の定着を図り、自己実現を目指して学習に取り組む意欲と力を育成する。
			計画	○個に応じた学習目標や学習計画に基づき、学習空白等による学習の遅れを補い、学力の向上を図る。 ○病院と連携して毎日安定して登校できるようにするとともに、学習活動や各種行事へ参加することにより、達成感や自尊感情（自己肯定感、自己有用感等）を高められるようにする。
		高等部	目標	○生徒自身が自立と社会参加に向けての課題を見付け、個々の実態に応じて、主体的に課題に取り組む能力を育成する。
			計画	○生徒の実態や希望に沿った目標をもつことにより、学力向上や資格取得、技能習得、体力向上等に意欲的に取り組めるようにする。 ○学習活動や各種行事での係活動等を通して、責任感や義務感を養うとともに、主体的に集団活動に参加できるようにする。
	重点1	訪問教育	目標	○保持している感覚機能や身体機能を維持し、周囲の人や物と関わろうとする意欲を育成する。
			計画	<u>○様々な感覚に働き掛けるために、個に応じた教材・教具（ICT機器等）を効果的に活用する。</u> <u>○自身に関わる人に関心をもち、働き掛けを受け止めたり、それに応じたりする経験を積めるように支援する。</u> ○病院の療法士や外部専門家等と連携し、支援の方法等について情報交換をするなど、教職員の専門性の向上を図る。
			目標	○児童生徒自身が健康課題や病気について正しく理解し、課題解決に向けて自ら行動したり、積極的に健康の回復を図ったりすることができる。 ○児童生徒の健康に関する意識を高め、健康を保持増進するために必要な基本的生活習慣を身に付けられるようにする。 ○児童生徒が意欲をもって学校生活及び病院生活を送ることができるように、情緒の安定を図る。
			計画	○健康回復に意欲的に取り組めるように学習活動の内容を工夫するとともに、病状の多様化・重度化に対応するため、病状理解や対処法について病院との連携を図る。 ○保健指導や学校保健委員会等の保健組織活動を実施し、健康に関する情報を児童生徒に提供することで知識理解を高め、健康を保つための習慣が身に付くようにする。 ○児童生徒の行動や生活意識及びその背景等について、教職員全員が共通理解を図れるよう、ケース会議や面談を随時開催し、病院と連携して指導に当たる。
2	学校生活	目標	○児童生徒自身が健康課題や病気について正しく理解し、課題解決に向けて自ら行動したり、積極的に健康の回復を図ったりすることができる。 ○児童生徒の健康に関する意識を高め、健康を保持増進するために必要な基本的生活習慣を身に付けられるようにする。 ○児童生徒が意欲をもって学校生活及び病院生活を送ることができるように、情緒の安定を図る。	
		計画	○健康回復に意欲的に取り組めるように学習活動の内容を工夫するとともに、病状の多様化・重度化に対応するため、病状理解や対処法について病院との連携を図る。 ○保健指導や学校保健委員会等の保健組織活動を実施し、健康に関する情報を児童生徒に提供することで知識理解を高め、健康を保つための習慣が身に付くようにする。 ○児童生徒の行動や生活意識及びその背景等について、教職員全員が共通理解を図れるよう、ケース会議や面談を随時開催し、病院と連携して指導に当たる。	

3	進路支援・ 教育相談	目標	<p>○病弱特別支援教育のセンター校としての役割を果たす。</p> <p>○病状・適性等を理解し、児童生徒自身が自立と社会参加を目指して主体的に進路選択できる能力や態度を育成する。</p> <p>○卒業・転学をした児童生徒について、家庭や転出先等と情報を共有し、継続的なフォローアップを行う。</p>
		計画	<p>○学校説明会や教育相談、ホームページ及び市町村の教育センター等の訪問を通して、小学校・中学校・高等学校、関係機関等に、病弱教育についての理解啓発を図る。</p> <p>○卒業生の様子を知ることや就業体験等を通して、卒業後の生活をイメージできるように、個に応じた進路支援を行う。</p> <p>○児童生徒の卒業・転学後3年間のフォローアップ計画を立て、定期的に、あるいは必要に応じて電話連絡及び訪問による状況確認を行う。</p>
4	特別活動	目標	<p>○学校行事や児童生徒会活動等を通して、個性の伸長や社会性の涵養を図る。</p> <p>○異年齢交流の機会を通して、人との関わりを喜び、自ら人と関わろうとする態度を養う。</p>
		計画	<p>○病院と連携しながら児童生徒会活動及び委員会活動の時間を進めるとともに、規範意識や社会性を育てるために「さわやか運動」やボランティア活動等の自主的な活動への参加を促す。</p> <p>○レクリエーション大会等の異年齢による集団活動の機会を多く設定し、主体的に児童生徒同士が関わられるように指導に当たる。</p>
5	その他 (専門性の向上) 重点2	目標	<p>○「児童生徒の自立と社会参加に向けた支援の在り方～自立活動の指導の充実～」を研究主題として、各学部や学部をまたいだグループ等、学校全体で共同研究を推進する。</p>
		計画	<p><u>○令和6～8年度の3年間を研究期間とし、今年度は自立活動の目標設定の根拠となりうる「実態把握シート」の作成に取り組む。</u></p> <p><u>○障害特性や病状の理解を深めるため、外部講師を招いて研修会を行う。</u></p> <p>○校内研究に対するニーズを調査し、要望の高い研究内容を取り上げるとともに、見通しのある研究計画、意見交換しやすい雰囲気づくり等に努める。</p>

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和6年度 富山県立ふるさと支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動(訪問教育)
重点課題	グループ学習や学校行事等での交流活動を通じた取組
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 訪問教育の児童生徒は富山病院重心病棟に入院または通所サービスを利用しており、重度・重複障害があることに加え、高度な医療的ケアを必要とする者が多い。 ○ 活動する場所や内容等に制約があるが、コロナ禍以前は車椅子に移乗できる児童生徒が病室や病棟内で集団学習したり、登校できる児童生徒が学校で一緒に学習したりしていた。また、通学生の児童生徒とも機会を設けて交流していた。 ○ コロナ禍の時期や感染症予防対策の為病棟での活動に制限のあった時期は、授業にICTを活用しオンラインで学習や学校行事に参加する経験をしたことで、画面越しの友達や教師の声などに意識を向ける様子が見られる児童生徒が増えた。 ○ 今年度、車椅子に移乗できる児童生徒が病室や病棟内を移動して友達と挨拶をしたり、一緒に学習したりすることができるようになった。 ○ 通学生の児童生徒が、重心病棟に入って交流活動を行うことはまだ難しい。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通じたグループ学習の実施 ○ 通学生の児童生徒との交流活動の実施 年間10回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車椅子に移乗できる児童生徒が病室や病棟内を移動して友達の所へ行き、挨拶をしたり、音楽活動や制作活動、ゲーム活動などを一緒に行ったりする。 ○ 病室や病棟が違う複数の訪問教育の児童生徒の授業において、オンラインで音楽活動や制作活動、ゲーム活動などを一緒に行う。 ○ 学校に登校したり、ICT機器を用いたオンラインやビデオを活用したりして、学校行事や授業に参加する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	専門性の向上
重点課題	病弱特別支援学校の自立活動における指導力の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中・高等部には、心身症や適応障害等の精神的な疾患を有する児童生徒が多く在籍している。ほとんどの児童生徒が、前籍校で長期欠席や相談室登校等を経験しており、自己理解や人間関係づくりにおいて課題を抱えている。自己肯定感の低さ、学習空白による学習の遅れへの不安も多く見受けられる。訪問教育の児童生徒は、重度・重複障害があり、自立活動を主とした教育課程で学んでいるが、重度化が進み、指導が難しくなっている。 ○ 自立活動の指導について、実態把握や目標設定、具体的な指導内容・方法等について学びたいと感じている教師が多い。また、実態把握について、現在のアセスメントシート等をもっと活用しやすいものになりたいと考えている教師も多い。 ○ 自立活動の指導は、時間の指導以外にも学校の教育活動全体を通じて取り組むべき指導であるが、教師間の連携が十分でない場合がある。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動画視聴や外部講師より、児童生徒の障害や病気の状態、実態把握の方法について学ぶ。(年間4回以上) ○ 目標設定の根拠となりうる校内の「実態把握シート」の作成に取り組む。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校課題について共通理解し、校内での自立活動の取組について意見交換する。 ○ 動画視聴や外部講師より、児童生徒の障害や病気の状態、実態把握の方法について学ぶ機会を設ける。 ○ 様々な実態把握の方法を用いて、実際に生徒の実態把握や自立活動の目標設定を行い、「実態把握シート」の様式を検討する。 ○ 計画的に研修日を設けて研修を進め、研究の経過や成果を共有するために報告会を実施し、意見交換する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)